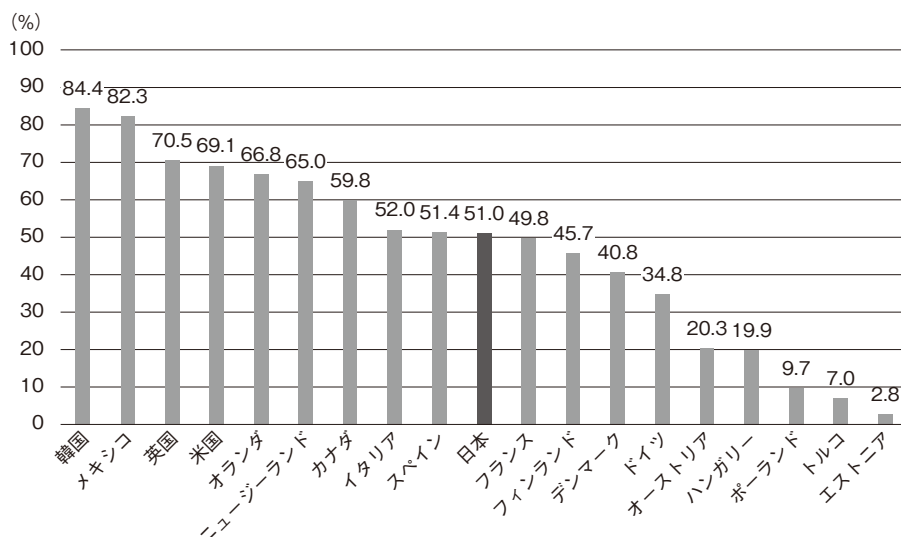


インフルエンザワクチン接種率（65 歳以上）



毎年のように流行が報道されるインフルエンザ。すべての年齢層が感染するが、高齢者が感染した場合、より深刻な病態や致死的な状況を引き起こす可能性がある。その有効性から現在、多くの先進国で高齢者へのインフルエンザワクチンの接種が推奨されている。OECD は、加盟各国の調査結果を基に、65 歳以上人口におけるインフルエンザワクチンの接種率を集計した。これによると韓国の接種率の高さが目立つ。日本でも、国は 65 歳以上の方へのワクチン接種を推奨しているが、その接種率は 51.0%にとどまっている。

OECD 「Health at a Glance 2017」を基に作成